

「ASA annual meeting 2018 in San Francisco 体験記」

市立函館病院 麻酔科 平畑知輝

この度、麻酔科分野で世界最大規模の学会である American Society of Anesthesiologists (ASA) annual meeting がサンフランシスコで開催されました。当講座からは総勢 16 名が参加し、私は初の海外学会でした。カリフォルニア州海岸部の地中海性気候に恵まれ、5日間晴天の中での学会となりました。

英語や研究ごとが得意ではない僕にとって抄録づくりからポスター作成まで右も左もわからぬ状態でしたが、それでも指導してくださる先生方には根気強く支えられてここまで来られました。

自分の発表はなんとか終わった安心感でいましたが、先輩方の「研究に役立つ質問はされた？」という未来を向いた会話ばかりであったことがひどく自分を恥ずかしくさせ、同時にこういった研究発表やコミュニケーションが後の医療の役に立つのだなと実感しました。

言語の不自由さはこれから克服しなければなりません、自分もこういった学術の世界に踏み込みたいと思えたのは大きな変化でした。

ご褒美にその土地の食文化に触れられることも学会の楽しみのひとつです。アメリカといえばデカイハンバーガーというイメージ(失礼!)でしたが、サンフランシスコは魚介類の豊富な街で、新鮮なカニやエビ、カキなどが濃厚な素材の味でそのままに、時には出汁がたっぷり効いたパスタなどの料理が楽しめます。

山蔭教授をはじめお世話になった札幌医大麻酔科の先生方、臨床研究の開始からずっと懇切丁寧にご指導をいただいた木井先生・枝長先生、人手不足のなかで快く送り出していただいた辻口先生はじめ市立函館病院麻酔科の先生方に、この場を借りて厚く御礼申しあげます。

